

矢作川流域圏懇談会、担い手事例集座談会

発展、広がっていくためのプロセスを考える

流域圏調査、奈佐の浜プロジェクト、矢作川流域圏懇談会での経験をふまえ、どのようなプロセスを経てここまで来たのか、これから必要なことは何かを考えてみた。

未来へ繋げていくためのプロセス

■ 理念・組織の共有

→ ■ 場の共有

→ ■ 課題・目的の共有

→ ■ ミッションの共有

→ ■ 成功(失敗)体験の共有

→ ■ 未来の共有

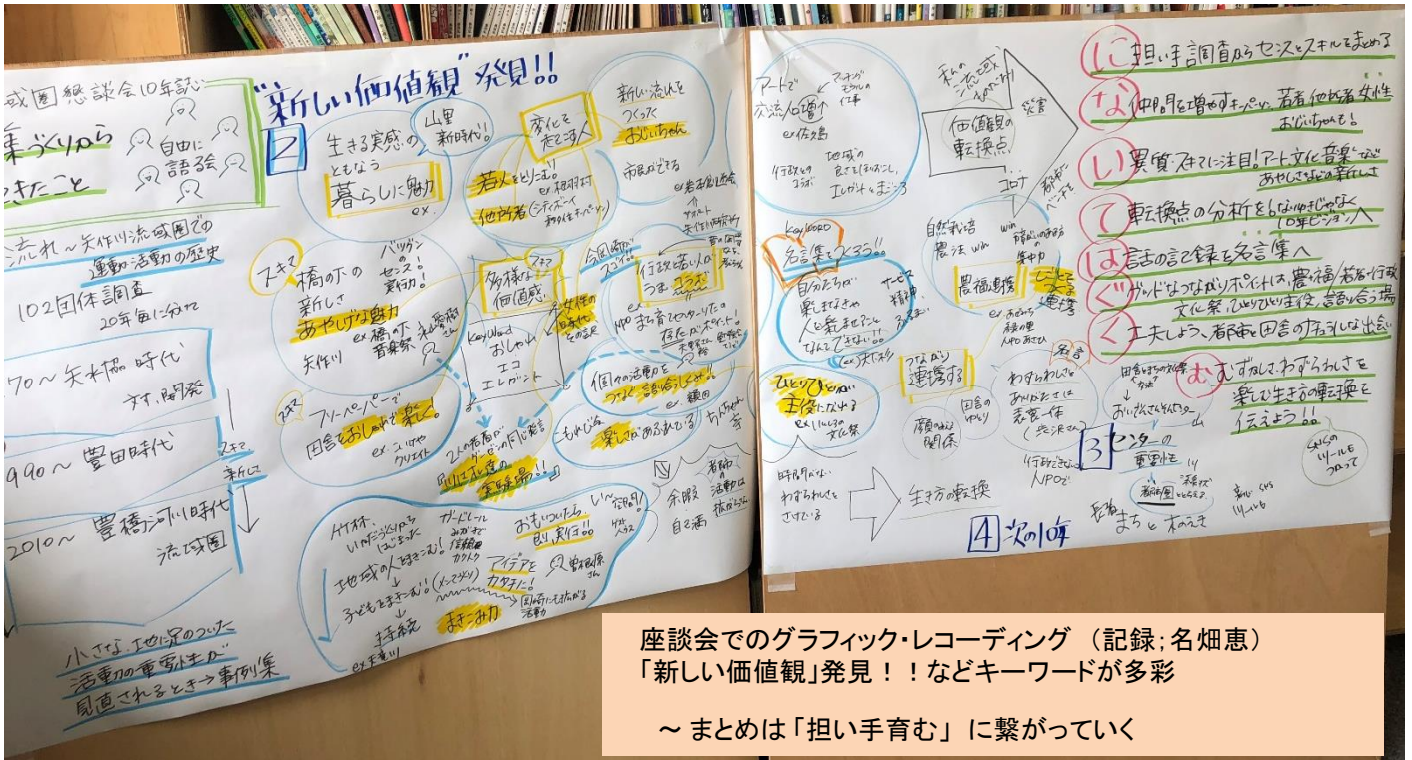
例えば

(矢作川流域圏懇談会)
(川部会ワーキングとか)

(担い手づくり事例集調査、エクスカージョン)
(発見、気づき、展望)
(次のステップ、新たな展開への希望)

考えてみれば当たり前のことであるが、これを繰り返し(どこに戻るのかはケースバイケース)、今までは新たな繋がりを作ってきたような気がする。懇談会の次のステップ、2020年以降のテーマ、ミッションなどを考えてみたい。このために2020年7月22日、「矢作川流域圏の50年と未来を語る座談会」を開催した。

(P33~P40は、その時の資料である)



座談会でのグラフィック・レコーディング (記録:名畑恵)
「新しい価値観」発見!! などキーワードが多彩

～まとめは「担い手育成」に繋がっていく



【懇談会参加者】

- 洲崎燈子(司会)
- 浜口美穂、沖章枝(山部会)、
- 高橋伸夫(海部会)、
- 近藤朗(川部会)

- 中田慎(事務局補佐)
- 名畑恵(記録・グラレコ)